



ファビハルタ®を服用されている患者さんは、このカードを常に携帯してください。

医療機関にかかるときは、治療に関わるすべての医療従事者（医師・看護師・薬剤師など）にこのカードを提示してください。

髄膜炎菌等による重篤な感染症に関連する初期徴候や症状がみられた場合には、直ちに主治医に連絡し、緊急の治療を受けてください。主治医と連絡が取れない場合には直ちに救急車を呼び、このカードを救命救急室のスタッフに提示してください。

ファビハルタ®の治療により、自然に備わっている感染症に対する抵抗性が低下することがあります。また、髄膜炎菌や肺炎球菌、インフルエンザ菌b型に対するワクチンを接種していたとしても感染症を予防できない場合があります。重篤な感染症は、早期発見、早期治療が行われない場合、急激に重症化し死に至ることがあるため、緊急の治療が必要です。

ファビハルタ®の治療を中断/中止した場合でも、髄膜炎菌等による感染症が発現することがありますので、本剤の治療終了後も最低2週間はこのカードを携帯してください。

髄膜炎菌等による感染症が疑われる際に注意が必要な症状

- 発熱 ●震えや悪寒 ●頭痛 ●発疹 ●胸痛や咳
- 息苦しさ（息切れや呼吸数の増加） ●高い心拍数
- 吐き気や嘔吐 ●首筋や背中のかばり
- 錯乱（混乱していて考えがまとまらない、物事を理解できない）
- インフルエンザのような症状を伴う体の痛み
- 皮膚の冷感
- 光に対する過敏な感覚
（光が異様にキラキラ輝いて見える、異常にまぶしく感じる等）

など

感染症の初期症状は、インフルエンザや風邪の症状と
区別がつきにくい場合があります。

この患者さんは、補体B因子阻害剤ファビハルタ®(イプタコパン)が処方されており、**髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌等の莢膜形成細菌による重篤な感染症**の発症リスクが増加しています。

- 髄膜炎菌等による重篤な感染症は、早期に治療が行われない場合、急激に重症化し、死に至る可能性があります。
- 髄膜炎菌等による重篤な感染症が疑われる場合あるいは否定できない場合には、抗菌剤の投与等の適切な治療を直ちに開始してください。詳しい治療法に関する情報は、最新のガイドラインをご参照ください(日本神経学会診療ガイドライン内「細菌性髄膜炎診療ガイドライン」等)。

第3世代セフェム系抗菌薬(セフトリアキソン、セフォタキシム)による治療が推奨されています。

- 髄膜炎菌等による重篤な感染症が疑われた場合には、直ちに主治医に連絡をお願いいたします。

<https://www.neurology-jp.org/guidelinem/>



日本神経学会
診療ガイドライン

感染症の予防のため、ワクチンの接種が必要です。
以下のワクチン接種日を記録してください(医師記入)。

※追加接種の要否は主治医と相談してください。

	接種した日	次回接種予定
髄膜炎菌ワクチン	年 月 日	年 月
肺炎球菌ワクチン	年 月 日	年 月
インフルエンザ菌 b型(Hib)ワクチン	年 月 日	年 月

**ファビハルタ®の最新の電子添文は、
こちらからご覧いただけます。**



<https://www.pro.novartis.com/jp-ja/products/fabhalta/document>



患者氏名	
疾患名	
ファビハルタ®治療の医療機関名	
主治医名	
電話番号	
緊急時受診可能医療機関名	
連絡先医師名	
電話番号	

ファビハルタ®に関する治療の詳細や、「緊急時受診可能医療機関」は主治医と相談してください。

このカードは常に携帯し、ファビハルタ®を受け取る際には薬剤師に提示してください。